

新技術名：リンゴ黒星病に対する新殺菌剤の実用化（昭和62年～平成6年）
（スコア水和剤10の防除効果）

⑨・参

研究機関名 果樹試験場環境部病害担当・鹿角分場
担 当 者 浅利正義・高橋俊作・水野昇・大隅専一

I 新技術の解説

(1) 要 旨

○ね ら い

スコア水和剤10のリンゴ黒星病等に対する防除効果を検討し、開花期前後の防除剤として実用化を図る。

○経過と方法

昭和62年～平成6年の期間に、黒星病、赤星病、うどんこ病に対する防除効果とサビ果発生程度などについて試験を行った。

○技術の要旨

- ① スコア水和剤10 3000倍は、リンゴ黒星病に対し実用化されている防除剤とほぼ同等の防除効果を示し、葉害は認められなかった。また赤星病、うどんこ病に対しても高い防除効果を示した。
- ② サビ果の発生が少なく、実用化されている防除剤とほぼ同程度であった。
- ③ スコア水和剤10はE B I剤であり、開花直前及び落花直後の黒星病、赤星病、うどんこ病の同時防除剤として実用性が高い。また、水溶性内袋（W.S.B）包装であり、薬液調製時の粉末飛散がなく安全である。平成7年度のリンゴ病害虫防除基準にスコア水和剤10 3000倍を採用した。

(2) もたらされる効果

開花直前及び落花直後の黒星病防除剤として高い効果が期待できる。また、赤星病、うどんこ病の同時防除が可能である。

(3) 普及対象範囲

全県（リンゴ）

(4) 普及上の留意事項

- ① 黒星病多発園では、他のE B I剤やE B I混合剤と同様に開花直前及び落花直後の2回散布するが、少～中程度の発生園では落花直後に1回散布する。
- ② 黒星病の果実発病防止、耐性菌発現回避などの点から単剤散布はせず、必ず主剤と混用する。
- ③ 他のE B I剤やE B I混合剤を含め、年間使用回数を2回程度にとどめる。
- ④ 収穫14日前まで、3回以内、普通物B類

(5) 発表文献等

II 具体的なデータ等

表一 黒星病防除試験 (鹿角分場、平成6年)

供試薬剤	希釈数	果叢葉病葉率	新梢葉病葉率	黒星病病果率	サビ果発生度
スコア w10%	3000	0.7	0.2	0.6	4.0
オーソサイド w80%	800	2.7	2.0	2.2	1.8
無散布	—	15.2	15.2	58.0	1.8

*品種：ふじ
 散布月日：5/12、5/24、6/3、6/13、6/23、7/4
 調査月日：7/14 (発病状況)、9/14 (サビ果発生状況)

表二 赤星病防除試験 (本場、昭和62年)

供試薬剤	使用濃度	調査葉数	発葉率	発生度	薬害
スコア水和剤10	4000	86	0	0	—
ジマンダイセン水和剤	600	83	7.3	1.9	—
無散布	—	91	71.3	53.9	—

*品種：ふじ、ゴールデン／マルバ ポット植え3年生
 散布月日：5/18、5/29、6/8
 調査月日：6/4

表三 うどんこ病防除試験 (本場、昭和63年)

供試薬剤	使用濃度	5葉位まで			6葉位以上			薬害
		調査葉数	病葉率	発生度	調査葉数	病葉率	発生度	
スコア水和剤10	2000	20	7.5	0.8	18	60.9	11.3	—
〃	4000	15	46.7	14.8	16	85.9	24.8	—
サンアップ水和剤	600	13	26.8	5.0	14	69.7	20.8	—
無散布	—	25	100.0	94.0	21	100.0	51.0	—

*品種：東光／マルバ ポット植え3年生
 散布月日：5/21、5/30、6/20
 調査月日：6/20

発行年月	9506	キーワード	159
基礎分類	35	キーワード	
作目名	35	キーワード	